

吉岡徹* 〇斎藤祥子** 高野美栄*³ 小田中久良子*⁴ 蕭池香津代*³ 家永晶子*⁵ 高木くに子*⁶
 *大妻女大 **北海道教育大 *³東京家政学院短大 *⁴就実短大 *⁵樽巻東女短大 *⁶中京短大

目的 高齢者とよばれる年齢の範囲は大きい。そこで年齢の違いによって、同じ図柄でも色彩によってどの程度、嗜好に影響があるのかを分析していきその年齢特性を明らかにすることである。

方法 対象、試料、観察、質問、場所は、(4)と同じである。65～74歳を①、75歳以上のグループを②と2つのグループに分け、対象者全員、男性同士、女性同士、さらに男女別で単純集計、クロス集計を行って①と②内の全体の傾向を把握し、両者を比較していった。

結果 同じ図柄でも色彩の違いによって嗜好は①と②に違いがみられたが、図柄によって色彩とイメージが結びつくPのような例は男女とも①と②に大きな違いは見られなかった。造形要素の強いUにおいては、男性にはあまり差が無かったが、女性では①より②に好まれない等の違いが見いだされた。

一方、Hは、女性には差が無かったのに対して、男性には、どの色彩に対しても②に差をつけて①に高い支持を受けていた。①と②には、色彩と図柄の組み合わせによって男女の違いはあるものには、伝統的で明確な造形要素が好まれ②のグループには、色彩よりも図柄に偏りが見られた。